

寄稿

学院長からの 寄稿





薬学部設置10周年を迎えて

学校法人愛知学院 学院長

小出 忠孝

今度愛知学院大学薬学部が設置10周年を迎えるにあたり、10周年記念誌を発刊されます事に心よりお祝い申し上げます。本学薬学部は平成17年創設で当時は四年制でしたので、第1回生が卒業したのは20年度でした。しかし翌18年から薬学教育は6年制課程に改訂された為、6年制薬学部の第1回生は24年春卒業であり、薬学部としては新設校の方に属しています。

しかし本学が薬学部を設置した時は東海地区では50年ぶりであり、当時の東海地区は薬剤師が全国平均より15～25%少なく、特に名古屋は東京、大阪と比べて30%以上も少ない状況でした。一方医薬分業の進展、大型ドラッグストアの急増により薬剤師需要が急増し薬剤師不足が強調された時代で、当時の社会の要請に応じて本学は薬学部を設置したのでした。さらに本学では従来の薬学、医薬品を対象とする薬剤師養成に加えて、医療人の一人として疾病・治療に関する知識や患者に対するコミュニケーション能力を有する薬剤師を養成する医療薬学部として発足しました。幸に東海地区では50年ぶりの薬学部設置であった為、名市大を始めとし近隣大学より優秀な先生方を招聘する事ができ、又各先生は大変な情熱をもって新設薬学部の教育にあたって頂きました。さらに第1回入学生は大変高倍率の入学試験を突破した優秀な学生であった事などから、本学は新設校ながら高い評価を得る事ができ、第1回国家試験でも旧来の伝統ある薬科大学に引けをとらない好成绩をあげる事が出来ました。現在、社会は高齢化が一段と進み国民は健康長寿を願っており、薬剤師の需要は益々大となっています。その為、薬剤師には病気を予防する健康増進、老化防止から、さらに若さと美しさを保持するための要望も加わってきています。この様な国民の多様な要望に応える事の出来る薬学教育を行う事が薬学部の使命であり、責任は大であります。本学の薬学会がこの様な期待に応えるべく薬学の教育研究に更に貢献される事を期待致します。